

(総務省) 全体ヒアリング概要

日時：平成21年9月8日(火)

場所：合同庁舎4号館4階第2特別会議室

聴取者：有識者議員 相澤議員、本席議員、奥村議員、白石議員、青木議員、
内閣府 藤田政策統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大江田審議官、
須藤参事官、更田企画官

説明者：総務省 河内大臣官房総括審議官

【奥村議員】

総務省の研究範囲は情報通信に重点化されており、その要素技術は世界レベルにある。残念なのが、利用面においてその強みが活かされていない。ケータイのガラパゴス化のように海外にうまく展開できていない。

すなわち、受け取った産業側もその優れた要素技術を生かし切れない。開発フェーズが突出して進んでいるのではないか。先導力はあるが、足元の産業が追いついていないようにも見えるが、どう感じているか。

【総務省】

技術としては高いレベルにある。市場からみると、性能がストレートに現れる部品では高いシェアを誇るものの、システムとしては売れていない。技術戦略だけではなく、販売戦略も含めて、システム全体として展開していくことが課題。そのために、情報通信国際戦略局を設置して技術開発と国際展開の一体的推進に取り組んでいる。世界的に見るとインフラ面ではトップであるが、利用は遅れている。他の府省やIT戦略本部との連携を進め、利用の拡大に努めていきたい。

【奥村議員】

他府省にも情報通信技術の素晴らしさを知ってもらい、利用を促進する必要がある。アメリカではバイオメディカルと情報通信技術を結びつける取組み等を進めている。連携策がもっとあってもいい。

【総務省】

情報通信技術を様々な社会システムに対して適用していきたい。i-Japan 戦略でも他府省とも積極的に連携して実証実験等を進めていきたい。

【相澤議員】

15ページの重要な研究開発課題の「我が国が技術的に特に強み」は何を意味するのか。強いところを強力に進めるということか。個々の技術の重要性は分かるが、バラバラで、優先順位や結びつきが分からない。技術開発のストーリーや他の基本計画

等との関係はどうなっているのか。星が付いていないITSやユビキタスやホームネットワークも重要な分野である。

【総務省】

星が付いているところは、強みや伸び、もしくは市場への期待ができる分野。これらの星が多いところにリソースを投入していく。しかし、次世代ワイヤレスは次世代携帯につながるし、ITSは交通システム全体の高度化につながる。星がついていないものもそれぞれ大きな市場の広がりが期待できる。審議会で答申された、「我が国の国際競争力を強化するためのICT研究開発・標準化戦略」等に基づき、進めていく。

【相澤議員】

総務省の独法だけが研究拠点ではない。国際的な強調、連携が見えない。ガラパゴス化の反省と、海外との協調・連携を進めていくことが重要。国際連携すべきものをピックアップして、国際プログラムとして展開していくことも必要。

【総務省】

ガラパゴス化した理由、反省点は、独善的に進めてきたことであると考え。これからは、海外の勝ち組と連携するなど、国際的な連携を進め、世界に展開していく枠組みを構築していきたい。

【相澤議員】

情報通信技術はグローバルな視野を持って取り組むことが必要。情報通信はイノベーションの主軸となることが期待されており、そのことを全面的に強く出していくべき。

【奥村議員】

国際的な仲間作りが重要。国際標準は海外とも連携して策定する必要がある。技術の流出を恐れて国内にこもるのではなく、技術流出対策を講じた上で、新興国を招いて一緒に仕事をするなど、海外連携を一層進めることが必要。

【総務省】

ご指摘のとおり。恐れているのはグローバルな市場でうまくいかない。研究開発を進めるとともに、標準化人材の育成に取り組む等、組み合わせて戦略的な連携を促進していきたい。

【青木議員】

海外とは、開発の段階から連携することが必要である。価格付けに関しては、ライセンス方法の見直し等で対応すべきではないか。

【総務省】

外国の主要な技術についてのパテントマップを調べて、どこの企業とどう連携していけば良いかを分かるようにするなど、戦略的な連携を進めている。

以上